

開催日時 令和2年10月20日(火) 15時～16時30分

テーマ 「幸せデジタル化に向けたアクションと基本構想」

会議概要 以下のテーマに基づき、様々な意見をいただいた。

発言テーマ①【幸せデジタル化を実現するための活動等のアイデア】

以下発言順

	委員	テーマ	いただいた主な意見等
1	平田 麻莉 氏	DXによる外部人材活用	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材を活用してオンラインチームで仕事をする際は、担当者1人だけが外部人材とコミュニケーションするのではなく、社内外の関係者全員によるプロジェクトチームを編成し、チャットツールで常に情報共有しながら進めることが肝要。 これにより社内外の様々な情報に触れることができ、課題や可能性を各自が拾い、自発的に提案する環境ができる。 <p>など</p>
2	森本千賀子 氏	DXによる女性活躍	<ul style="list-style-type: none"> リモートワーク、テレワークを促進することにより、時間の制限を受けることなく、女性が自身の仕事にチャレンジできる環境をつくることができる。 例えば、専門性の高い業務を外部委託する「クラウドソーシング」の仕組みを活用することで、そこに登録している女性が在宅勤務・テレワーク等の方法でワークシェアし、プロ人材育成を促進することも可能。 <p>など</p>
3	朝井 正夫 氏	デジタル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 山形県情報産業協会では、県のIoT推進ラボと連携して、AI技術者育成に取り組み、昨年度は、E資格に5名合格の実績。 また、今年10月からは、AIアドバイザー派遣事業をスタートしており、さらに技術向上や海外市場への進出を視野に入れたIT業界の活性化を目指している。 首都圏への人材流出の課題もあるため、需要と供給の両面から人材の定着を図ることが不可欠。 <p>など</p>
4	矢野圭一郎 氏		<ul style="list-style-type: none"> これからは、移動しない時代の国際ビジネスをどう動かしていくかが大事。 ニューノーマル時代のスマートシティ戦略等、そのような視点が大事なのではないか。 物理的に人を移動させるのではなく、その場にはいない人たちが山形に魅力を感じて、いろいろな仕組みを活用できるような取組みが大事。 <p>など</p>
5	田中陽一郎 氏		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発においては、アメリカの研究者がコードを書く。次に日本の研究者がコードを書く。そのあとはインドの研究者がコードを書いてソフトウェアを仕上げるというような分担をしている。 このため、どこに人がいるかというよりは、世界中のアンカーパーソンを使っていくことが重要ではないか。 リモートのメリットを活かし、各地のアンカーパーソンを結んで、異なる分野の新結合を促していくべき。 <p>など</p>

発言テーマ②【幸せデジタル化構想に係る意見交換】

以下発言順

委 員		いただいた主な意見等	
1	渡会 俊輔 氏	県・市町村職員 の研修開催	<ul style="list-style-type: none"> まずは、小さいことから始めることが大切であり、比較的短期間で実施可能なテーマに絞り、短期集中型の実践プログラムを行うような、県・市町村職員向けの研修会の開催を開催してはどうか。 <p>など</p>
2	中川めぐみ 氏	ノウハウの継 承と共有、 デジタル人材 の育成	<ul style="list-style-type: none"> 経営生産の効率化について、データ化によるノウハウの縦の継承だけでなく、横の連携による他地域や異なる条件下での情報共有により、更なる発展が可能。 デジタル活用のブランド強化では、新規開拓だけでなく、生産者との関わりを維持する取組みが重要。 デジタル人材育成では、対象者に身近なテーマを実施することが重要。 <p>など</p>
3	松本 友哉 氏	デジタルとアナ ログの良さを 組み合わせる こと	<ul style="list-style-type: none"> テックアイランド(離島地域とテクノロジーを組み合わせたプラットフォーム)というオンラインコミュニティを作ってはどうか。例えば、飛島を山形県のテックの出島(デジタル出島⇒デジマ)にしてはどうか。 アナログな資源があるところが、山形県の良い所。デジタルとアナログのそれぞれの良さを活かし、組み合わせることで、「幸せな暮らしの技術(ウェルテック)」を目指すことが重要。 <p>など</p>
4	朝井 正夫 氏	官民のさらなる 協力	<ul style="list-style-type: none"> 国家公務員の場合は、官民交流法により、民間企業の人材を、元の会社に籍を残したまま、省庁で働かせることができると聞いており、地方自治体においても同様の運用ができないものかと思う。 官民が、お互いの現場の課題を肌で感じて、地に足のついたデジタル化を推進することが、何より肝要。 <p>など</p>
5	可児島ナタリー 氏	宿泊施設と異 文化理解の強 化	<ul style="list-style-type: none"> 観光に重要なポイントである5A(アクセス、宿泊施設、観光地、アクティビティ、アメニティ)のうち、日本では、宿泊施設が弱い。 異文化理解力を高めるために、簡単な異文化コースが必要。 <p>など</p>
6	田中陽一郎 氏	県民の幸せの ための行政デ ジタル化、 世代間をつな ぐ教育	<ul style="list-style-type: none"> 幸せデジタル化構想について、CDO(チーフデジタルオフィサー)と呼ばれる人を仕切り役として、構想を戦略に落とし込んでいくような仕組みが必要である。 公的部門では、県民向けの外に向けたデジタル化と、公的部門の中で効率を高めるためのデジタル化の二階建てが必要。 山形AI部のような活動を、同じ学年の中で横に広げるだけでなく、世代を越えた大きな縦方向の繋がりを持たせるというのが、とても重要。 <p>など</p>
7	平田 麻莉 氏	リモートとオフ ラインの併用	<ul style="list-style-type: none"> リモート、オフラインの2択ではなく、併用していくことで不安を取り除くことが大事であり、今あるリアルでのコミュニケーションに、プラスαで使える手段としてとらえてほしい。 <p>など</p>
8	矢野圭一郎 氏	デジタル人材 を受け入れる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> デジタル人材を受け入れる文化がないと定着しないため、受け入れるための土壌を山形に作る事が大事。 いろいろな人たちの、いろいろな才能を受け入れる企業や環境が重要。 <p>など</p>
9	森本千賀子 氏	山形に接点の ある方々への 働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的な課題として、「受け入れ側」となる地方で、多様な価値観を受け入れるキャパシティを増やす取組みをすることが重要。 他方、すぐできることとしては、山形と何らかの繋がりや応援団的な要素を持っている方に働きかけを行うことで、最初は副業や、業務委託等の形態から始めていただき、徐々にコミュニケーションを深めながら、定住に結び付けていくことも可能ではないか。 <p>など</p>